

会 議 録

全部記録 要点記録

1 会議名	姫路市総合計画策定審議会 第1分科会 第1回会議
2 開催日時	令和元年8月20日（火曜日） 14時00分～16時10分
3 開催場所	姫路市役所 本庁10階 第2会議室
4 出席者又は欠席者名	<p>姫路市総合計画策定審議会委員 第1分科会 委員 12人中 11人（1人欠席）</p> <p>姫路市総合計画策定審議会委員 第2分科会 委員 1人</p> <p>姫路市総合計画策定審議会参与 5人中 2人</p>
5 傍聴の可否及び傍聴人数	傍聴可（5人） 傍聴人（0人）
6 議題又は案件及び結論等	<ol style="list-style-type: none"> 1 開 会 2 市長公室長挨拶 3 分科会会長挨拶 4 分科会委員紹介 5 分科会の進め方について 6 市政の現状説明 <ol style="list-style-type: none"> （1）ひめじ創生戦略について （2）地域活動の現状と市民活動の推進について （3）行財政改革について （4）情報化推進について （5）質疑応答
7 議事	<ol style="list-style-type: none"> （1）姫路市総合計画基本構想骨子案について

(2) 意見交換

8 連絡事項

9 閉会

7 会議の全部内容又は進行記録

詳細については別紙参照

事務局	1 開会 (14:00)
市長公室長	2 市長公室長挨拶
分科会会長	3 分科会会長挨拶
事務局	4 分科会委員紹介
分科会会長	5 分科会の進め方について
事務局	[説明資料] 分科会の進め方について 資料1
分科会会長	・今の説明について、ご質問があればいかがう。
委員	・市民活動、地方創生、行財政運営の3項目の中に対して、政策数(案)としては市民活動が4に対して、地方創生と行財政運営の二つの項目で政策が一つというのは、軽重の関係でいうと、市民活動の方はかなり重く考えたほうがよいということだと思うが、地方創生と行財政運営は一つにまとまる話なのかという気がするが。
事務局	・政策の数について、市民活動分野では、実際に取組んでいるものについて、市民活動・人権・市民文化・国際交流や異文化理解などのカテゴリにそって四つ設定をさせていただこうと考えた。地方創生・行財政運営は主に市役所の運営のところになるため一つ。分け方によっては二つになるかもしれないが、整理していきたいと考えている。
委員	・この政策の話だが、基本的にはローカルルールが姫路市は非常に定着している。町の制度や寺社仏閣の行事など。総論で議論するのか、各論まで話をするのか、どのレベルで話をするのか。
事務局	・議論については自由が前提だが、市の最上位計画であるので、あまり細

委員	<p>かい各論よりも、大きな方針を決めるような議論をしてもらいたい。各論の部分については、個別の分野別計画があるので、そこで議論する。</p> <p>・議論の進め方だが、これだけ時代の進歩が速い中で、スパンは短期なのか中期、長期なのか。議論の中心はどのような前提か。</p>
事務局	<p>・総合計画が2030年までの10年間と考えているので、期間的には中長期の計画になるかと思う。</p>
委員	<p>・第1分科会では「情報化推進」もテーマになっているが、それが入っていないがどうなっているのか。</p>
事務局	<p>・本日説明させていただく、市政の現状としては四つだが、分野としては、情報化推進は行財政運営に含まれるものと理解いただきたい。</p>
分科会会長	<p>6 市政の現状説明</p>
事務局	<p>[説明資料] 市政の現状 資料2</p> <p>(1) ひめじ創生戦略について (地方創生推進室)</p> <p>(2) 地域活動の現状と市民活動の推進について (市民参画部)</p> <p>(3) 行財政改革について (総務部)</p> <p>(4) 情報化推進について (情報政策室)</p> <p>(5) 質疑応答</p>
分科会会長	<p>・現状説明が終わった。ご質問、ご意見等があれば伺いたい。</p>
委員	<p>・我々の分科会は市民活動ということだが、自治会の活動の活性化、改革が大事だと思う。資料として、会長の在職年数の資料が4ページにあるが、5年未満が615人、31年以上が4人ということで非常にわかりやすい資料である。ここで質問だが、私自身も自治会で副会長をさせていただいたが、行政のコントロールが全くなく、自治会にまかされているように思うがそれでいいのか。</p> <p>・二つ目、事前にいただいた資料で、「地域活動の現状と市民活動の推進</p>

	<p>について」の2ページのところ、自治会の地域活動組織作りを検討していくと書かれている。現状、地区団体連絡協議会があるが、それを部会形式にして「総会」「事務局」「調整会議」があって、その下に部会、活動があって、その下に「それぞれの活動に賛同する個人や団体」とあるが、こういう全体の組織に対して賛同する個人がどのように関わっていくかについては既に議論はあるのか。この変更案の進捗はどうなっているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・三つ目としては、本日いただいた資料の9ページの「市民アイデアポスト」について。とても斬新であるが、投稿された意見に対して、どのセクションがどのように対応したかや所管部署がどこかわかるのか。
事務局（市民参画部長）	<ul style="list-style-type: none"> ・自治会長の年数は、任意の団体であるため、市からこのようにしなさいということではなく、実際には自治会で規約を決めて、2年で1期として何期まで、といったことを決められている。決められていない自治会もあり、これから決めようという流れになった自治会もある。 ・2番目の質問で、組織作りのところになるが、こちらの資料はあくまで例示であり、必ずしもこういう形や、こういうことを目指しているということではなくて、組織を見直すことでそれぞれの団体の負担感を減らせないかということと一緒に検討しようということである。 ・3番目のアイデアポストの件については、アイデアポストやFAXやメールでいろんな形で要望をいただいている。それぞれに「公開してもいい」という欄があり、チェックが入っているかを確認して、内容的に市政に関係ある内容で、同意があればそれぞれの担当課が作った回答を、本人に回答した後、毎月まとめてホームページ上に公開する形を取っている。ただ、回答はいらないが、こういったことだけ言いたいという場合が多く、それらは載せてない。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・では、アイデアポストも市のホームページで見られるということか。
事務局（市民参画部長）	<ul style="list-style-type: none"> ・はい。公開しても良いというものであれば公開している。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・第1分科会のテーマが「市民活動」ということだが、自治会の活性化、

<p>委員</p>	<p>自治会が苦勞している点などが市民活動の大事な部分であるので、経過を見させていただき、良いアイデアがあれば意見したい。</p> <p>・情報化推進とでているが、プロジェクターにしてもらって、補足資料は手元でという風にしてもらった方が良い。紙の資料もプロジェクター資料としてつくってある。それはさておき大きなビジョンを先に確認する必要がある。一番重大な問題は、ひめじ創生戦略の資料の、スライド5「人口減少が与える影響」のところ。⑤は姫路市だけでなく全国的に東京以外のどこの市町も抱えている問題で、近隣都市のことにもつながってくるのでしっかり確認したいが、軽く流している。近隣市町の人口減少は「重大な影響がある」と言っているが、どんな影響があつて、どうするかが見えない、これについて語ってもらう必要がある。後で連携中枢都市構想などが出てきて、スライド17の資料で出てくるが、最初に事務局の言われたようにパイの取り合いではないはずであるが、とはいえ近隣で人口を増やすために子どもの医療費を無料にするとすれば、そこに転入してきて人口が増えるとなつても、それは隣の人口をとっただけである。これは最初にどのような視点で推進していくか腹積もりを聞かせていただかないと我々も意見が出せない。目先だけのことで近隣が弱って姫路だけが栄えても意味がない。連携中枢都市圏構想を挙げられるのであればそこを回答いただきたい。</p> <p>・2点目。行財政改革のところ。資料の2枚目の4番目に実績効果額を挙げていて実績が上がっているようだが、内訳を見ると経費節減は27～29年度は横ばいになっていて目覚ましい額ではない。一方で、全体の効果額が上がっているのは、収入増が増えているから。これはどのように収入が増えたのか、税金が多かったのか、人口増になったのか。ここを説明いただきたい。この2点とする。</p>
<p>事務局（地方創生推進室長）</p>	<p>・連携中枢都市については、日本で32圏域ある中で、姫路市は最初に提案してトップランナーとして、日本一の連携中枢都市であると自負している。視点としては、就業・就学・交流・観光すべてにおいて密接に関係している。特に北部の市町では、住むところはあるが、働くところがない。逆に</p>

	<p>南部（加古川・高砂）は、働き手がない。これを上手にマッチングすることで、お互いの特性を生かして他の圏域よりも発展していくことができる。そういう意味では、姫路市は密接に関わる周辺市町の人口が減っている中でポツンと立っている都市ではあり得ない。播磨全体を支える中で姫路も発展していこうという視点で考えている。国の方でも連携中枢都市について注目している。トップランナーモデルとして制度自体をけん引する視点で姫路、播磨でやっていく。今後、第二期の連携中枢都市圏ビジョンを作成しており、総合計画とも連携して、よりよいものにしていきたい。</p>
事務局（総務部長）	<ul style="list-style-type: none"> ・行革の部分では、収入増についてのご質問だが、収入増については、市税等の6億円の増収が大きいところである。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・近隣との連携についてだが、例えば、子どもの医療費の無料化により人口増を目指すなどということは、足並みを揃えてできることなのか。同じようになれば結局、市のほうが便利ということになるかもしれない。連携の仕方はどのようになるか。自分のとこだけ良ければいいという首長もあるのではないか。連携と口先で言うのは簡単だが非常に難しいのではないか。
事務局（地方創生推進室長）	<ul style="list-style-type: none"> ・子育てに力を入れるのはどちらかというと衛星都市の施策であると考えている。姫路市は中核都市であり、周辺の労働も支えている。全ての施策をまんべんなく行う必要がある。そのような点では、子育てに思いきり力を入れる都市とは、都市としての性質が異なる。連携中枢都市圏の中で統一の政策を8市8町でやっていくという考えではない。8市8町で役割を分担して、連携するのであればA市とB市でといったかたちでフレキシブルにやるのが連携中枢都市の特徴である。それが従来の広域行政とは違うところである。難しいハンドリングが必要で、適宜連携していく。それぞれの市の役割分担を考えながら調整が必要である。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・最初に他の委員がおっしゃったことになるが、政策数の話である。先ほどの話では地方創生はかなり重要であり、産業・観光・人口政策等、さま

	<p>ざまな分野で全てに関わるものが、市役所内部についてのものと抱き合わせで一つの政策になるというのが腑に落ちない。ここは切り離すべきだと思う。市民活動分野の施策数は4であり、先ほどの説明をきいた限りでは、自治会組織が大きな役割を担っていることで自治会組織についての施策が大きな割合を占めてくるように思うが、この中に、女性活用の話がまったく入ってきていない。働き方改革とかの話は第2分科会で出てくると思うが、そのようなものが入っていない。市役所の構造だと、男女共同参画は市民活動に入ってきているのでここに入れざるを得ないのだと思うが、施策数4が何をもとに4なのか。地方創生・行財政改革がまとまって1になっている理由は何かお聞かせいただきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報化推進について、非常に大きな課題であると思っている。特に、観光都市姫路においては、これからはビッグデータをどう活用していくかが重要な施策になると思う。しかし、説明では、国の方針などは大きく出ているが、姫路市のアプローチは庁内のことに留まっている。どのように我々市民の活動に反映されていくのかと思うところである。情報化推進は、庁内の働き方改革の一部であるということか。情報化推進の役割についてお聞かせいただきたい。
分科会会長	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生の扱いが少なすぎるようだが。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・実際には具体的な内容を見ていただいた上でのご議論にはなると思うが、市民活動分野は先ほども説明したが、自治会・NPOをメインとした地縁団体の方々の取組で一つ。そして、これはもともと姫路市の抱えている問題もあり、最近では国際化や男女平等などの多様性など、人権の関係が一つ。三つ目が市民文化活動、四つ目がグローバルの視点である。 ・国際交流に対する市民の理解を深めながら姫路市の文化を発信し、向こうの文化を吸収する。それで多様な地域社会をつくっていくという四つを考えている。今ご指摘のあった、男女共同参画なども入ってくると考えて、市民活動の分野別目標、政策を考えていきたい。その中で次回以降ご確認いただければと思っている。 ・地方創生については、資料5-1で挙げている、九つの分野には入って

	<p>いない。われわれでも地方創生の扱いについては検討中のところがある。地方創生は一つの分野ではなく、全ての分野に共通して関わってくると考えている。一つの分野として取り出すのではなく、全てに共通する分野という扱いにすることを検討している。</p>
<p>事務局（情報政策室長）</p>	<p>・委員のおっしゃる通り、今までの姫路市の情報化計画は内向きの計画である。現状を考えると今後の取組としては外向けに、行政の持っている情報を発信していくことも非常に重要だと考えている。官民データの活用推進計画の策定の中で、その辺のデータの活用なども取組として盛り込んでいきたいと考えている。</p>
<p>分科会会長 事務局</p>	<p>7 議事 （1）姫路市総合計画基本構想骨子案について [説明資料] 基本構想骨子案 資料5-1～資料5-4</p>
<p>分科会会長</p>	<p>（2）意見交換 ・ありがとうございます。このような基本構想になるということが、これから分野別に話す際の基本の考え方になる。質問はないか。</p>
<p>委員</p>	<p>・いまの5-4で分野別のあるべき姿があり、先ほどの話では、地方創生が横串で入ることだったが、そうなるとこの図自体が変わる可能性もあるのか。</p>
<p>事務局</p>	<p>・おっしゃるとおり、横串で入るイメージになると考えている。</p>
<p>市長公室長</p>	<p>・横串というか全てに関わることはあるが、ただ、この総合計画は姫路市の話であり、地方創生や連携での計画は別の個別の計画を作っているの、どのような関わり方にするかは、これからの議論を踏まえながら整理したい。</p>
<p>委員</p>	<p>・この行動指針四つについて、世界に飛躍する「活力」とあるが、この「世</p>

	<p>界」について、色々世界を見て来た私からすると、本気なのかと思う。せっかく世界的にもすごい姫路城を持っているのに、観光にしてもこの程度しか活用できていない。ベンチャー企業もほとんどない。本当に世界を相手にする気があるのかと感じる。</p>
市長公室長	<ul style="list-style-type: none"> ・行動指針は今回初めて総計に入れようとしているものである。市民や企業の活動の行動指針をどう書くかというところは非常にセンシティブな話だと考えていて、こちらの方でも検討しているところである。文言についても今案として示しているが、こちらでも検討するし、ご意見いただければ参考にして練り上げたい。
委員	<ul style="list-style-type: none"> ・今の議論で思ったが、姫路は他の都市とは違うということで、姫路で雇用を提供することで周辺も含め人口を増やしたいというお答えをいただいたが、「活力」はそれそのものである。ICTとかAIと書くからそんなものはないという話になる。姫路の臨海の産業生産額は凄い。豊田に次ぐ凄い額であるという数字を見た。そういうことを盛り込むべきではないか。資料5-2ではこれから経済が縮小するというマイナスのことしか書いていないが、今凄いということを姫路や播磨の人は知らない。ちょっとそういうことも書けば今のような疑問は出ないのではないか。今凄い生産額があるのは事実なのでそれをもとに、産業・人口をどうするというふうに議論をするべきである。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ものづくりの分野では、世界的なシェアを占める企業もあり、そのあたりを前面に出す表現も検討していきたい。 ・併せて、イベントゾーンに建設中の文化コンベンションセンターも、姫路から文化を発信する活力づくりの拠点となるところだと思うので、そういったこともイメージして文章を工夫していきたい。
分科会副会長	<ul style="list-style-type: none"> ・二つ思っていて、一つは説明がものすごく長い。 ・もう一つ「夢のある計画」とあったがその夢の意味がよくわからない。現実問題の話と、将来の展望とバックキャストの話があるが、でき

<p>市長公室長</p>	<p>ることとできないことの線引きをする必要がある。事実は事実として伝えるべきだと思うが、そのあたりの説明の資料がだいぶ抜けている気がする。市民活動については、もっと広く話していくべき。その中でテーマ割の事実がまったくわからないので、一体何をしたいのかよくわからなかった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・夢のある計画のスタンスとしては、市としてはある程度の現実性のある議論を踏まえて具体的な話をしていくべき。50数万人の都市で100万を目指すわけではない。その辺の若干ニュアンスを教えていただけるとありがたい。というのは、夢のある話をしても意味がない。私たちは具体的な話をしていくべきだし、実りのある話をしないと、総合計画はすばらしい事を書いてあるけれど一体何だったのということになる。どのような方針で計画を位置付けているのかをはっきりすると意見が言いやすい。 ・本日の資料は、説明する側としても偏ったものになっていると思っている。説明が足りていないとのことで申し訳ない。偏った説明をしてしまったが、男女や人権の話もあるので押しなべて説明させていただければと思う。 ・「夢のある」と冒頭申し上げたが、人口減少、高齢化による社会保障費の増加、高度経済成長期のインフラが老朽化しているという厳しい財政状況にある。現実的に考えると、楽しい話や、前向きな話ではできないかもしれないが、その中で選択と集中や強弱の議論を行う必要がある。総計は、個別の計画ではないので総論的にならざるを得ない。一定の総花的なものになる。それを夢というのかはわからないが、そういう部分でこんなことができるかなという部分が見えたらというのが、私のイメージである。 ・バックキャストとあったが、あれはまずは目標を定めてそこから逆算という考え方を示したものであって、総計そのものがそうなるわけではない。フォワードキャストになる部分もある。その中で委員の皆さんにご意見をいただいて、強弱をつける参考にさせていただいたり、これからはこういう方向で行くべきであるというご意見があれば選択させていただいたりしたいと考えている。 <p>8 連絡事項</p>
--------------	---

分科会会長	・また個々の政策の話になった時に、行動指針、ビジョンについてもやっ
事務局	ていきたいと思っている。最後に事務局から連絡を。
	・今後の日程等、連絡。
	9 閉会 (16:10)